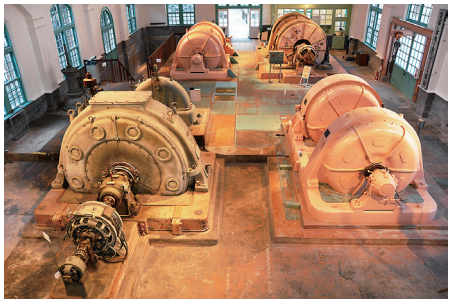
新居浜の産業遺産物語

物語⑫
旧端出場水力発電所
（国登録有形文化財）

旧端出場水力発電所


内部

旧端出場水力発電所は、別子銅山における電力需要の増大に対応するため、明治45年に建設されました。重厚なれんが造りで、円窓やアーチ窓など西洋の教会を思わせる意匠が施され、内部にはドイツのシーメンス社製発電機やフォイト社製ペルトン水車が稼働当時の姿のまま残されています。

発電に使用する水は、山向こうの吉野川水系銅山川とその支流から取水し、鉱山用トンネルとれんが造りの水路（計約7㎞）を経て石ヶ山丈の貯水槽に入り、水圧鉄管を通って597mの落差で発電所へ流れ込みました。大正12年には、四阪島まで海底ケーブル（約20㎞）で送電が行われ、サンフランシスコ湾に敷設された7マイル（約11㎞）を抜いて、当時世界最長となりました。

発電所は昭和45年まで運転を続け、別子銅山の近代化を支えるとともに、銅山から派生した機械工業、化学工業、アルミ工業などの発展にも大きく貢献し、新居浜の工業の礎を築きました。

令和5年に耐震補強工事が完了し、現在、建物の内外を見学することができます。

別子銅山文化遺産課　☎65-1236

広告欄

発行：新居浜市　編集：シティプロモーション推進課
☎0897-65-1234（代表）　印刷：㈱ハラプレックス

広告掲載については、ソネ　デザインスタジオ（☎0897-33-5721）へお問い合わせください。